

＜解決すべき社会的問題点＞

- ◆ 都市部・・・増加する非正規雇用、低所得者、生活困難者等への対応が課題。
- ◆ 地方・・・若年層の減少、働き手の確保が課題。その一方で仕事の場の提供も課題。

【都市部と地方の連携例】
・大阪府豊中市、高知県土佐町の連携
・青森県弘前市、大阪府泉佐野市の連携

都市部と地方双方の課題解決に向けて取り組んでいる活動をマッチングさせるスキームに対して、休眠預金等を活用してはどうか。

都市部

増加する非正規雇用、
低所得者、生活困難者
等への支援

【主な担い手：NPO法人】

- ・非正規職員の正規職員化
- ・低所得者向けの職業訓練
- ・若年無就業者（ニート）、フリーター、ひきこもり等の社会的自立、就労支援
- ・ひとり親家庭支援
シングルマザーの応援
（就業スキルのアップ、キャリア形成、子育て支援ほか）
- ・障がい者就労支援

各種サポート
行政

経済的効果：非正規→正規、支援コスト削減
社会的効果：都市部の人口集中緩和、保育所問題の解消

地方

働き手の確保

- ＞就業支援、移住・定住支援
- ・地元企業、農林業等への就業支援
- ⇒ 休耕地の活用
- ⇒ 里山整備
- さらに間伐材の活用（バイオマス発電）、有害鳥獣の駆除、食肉活用
- ⇒ 障がい者雇用
- ・空き家、空き店舗の利活用

ネットワーク化→〈自立サポート〉～拡大
＞地元の知見を活かした指導者の確保・育成
⇒農業 ⇒林業
⇒既移住者、進出企業ほか

各種サポート
行政
地域金融機関
（パイプ役、資金面での支援）

経済的効果：税収増、助成金等の減少
社会的効果：雇用増、Uターン促進、人口流入

ここが希薄

マッチング・アフターケア

- ・都市部と地方の課題をマッチング、マッチング後のアフターケア対応
（想定される運営主体：NPO法人、各種企業・団体）

【留意点】
機微情報、個人情報の管理徹底

休眠預金等の活用

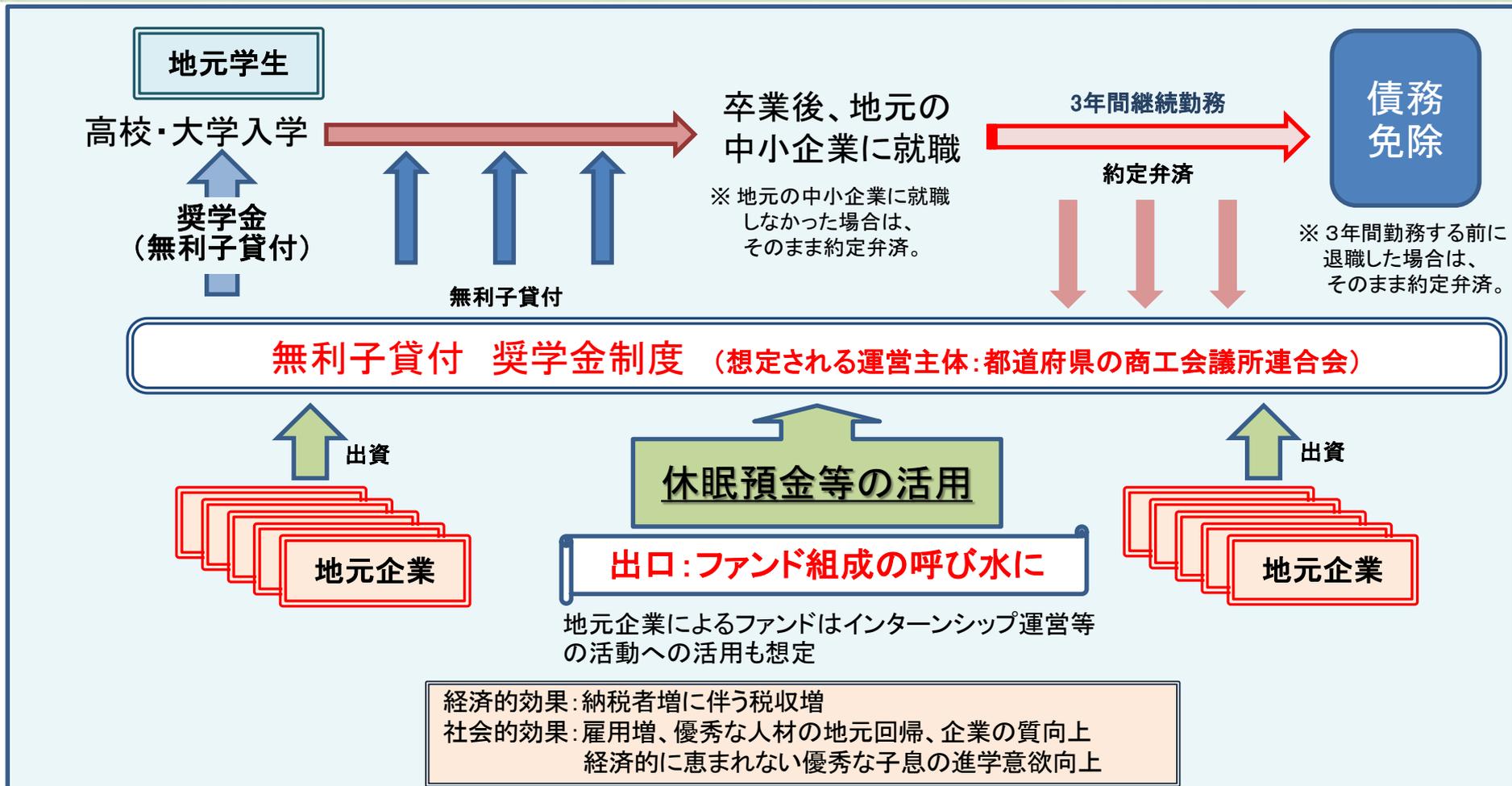
出口：投資等の呼び水に

<解決すべき社会的問題点>

◆ 地 方…若年層の地元企業への就職促進が課題。

(例) 都市部の大学を卒業後、地元に戻ってこない。地元の学校を卒業後、都市部の企業に就職してしまう。

進学を志す学生に無利子で奨学金を貸し付け。卒業後に地元中小企業に就職し、同一企業に3年間勤務した者については、その後の返済を免除する制度を創設してはどうか。【地元雇用増の仕掛けづくり、休眠預金等呼び水にファンド組成を目指す】



＜解決すべき社会的問題点＞

- ◆ 地 方…インバウンドの外国人旅行者の取り込みに向けた観光ボランティアの育成が課題。
 (例) 都市部には豊富な外国語の堪能な観光ボランティアが地方では不足。

【直近で開催される主なビッグイベント】
 2019年 ラグビーワールドカップ
 2020年 オリンピック・パラリンピック

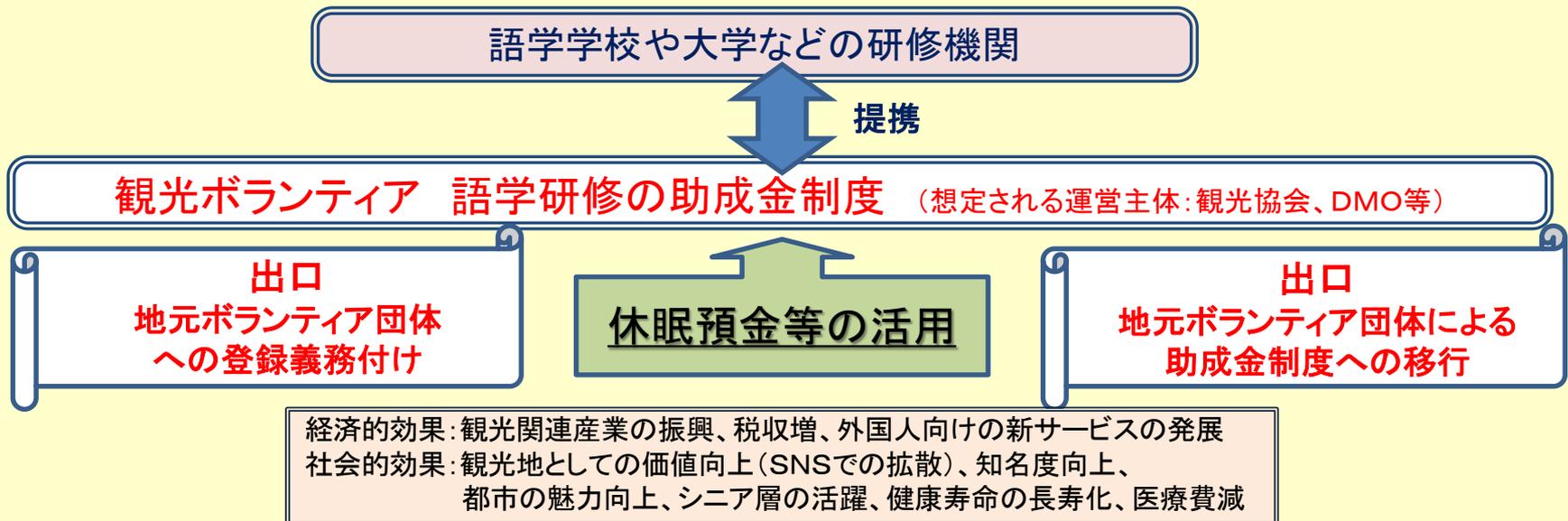
インバウンド取り込みに向け、海外の旅行者を観光案内できるボランティアを養成するため、語学研修の助成金支給の条件として、例えば月2回の観光ボランティアを義務付けてはどうか

地元ボランティア団体への参加を前提とした大学生・中高年層がターゲット

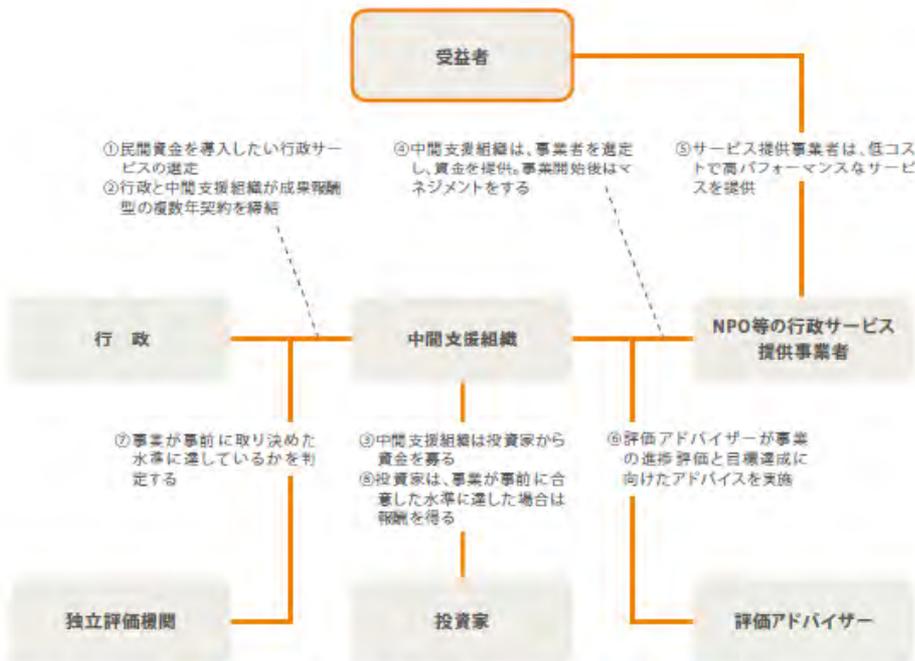
観光ボランティアの語学研修の助成金支給の条件として月2回の観光ボランティアを義務付け。

(支給方法)

- ・ 月2回の観光ボランティア活動を行うと、語学研修のクーポンを配布。
- ・ 観光ボランティア活動を行う毎に証明書を発行。研修申込時に証明書(2枚)を添付。



ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)の仕組み



(出所) G8 社会的インパクト投資タスクフォース日本国内諮問委員会「社会的インパクト投資の拡大に向けた提言書」(2015年5月29日)

現在、ソーシャル・インパクト・ボンドは健康・福祉分野への導入が進められている。

- ・日本では、2015年度からSIB事業が国家の重要政策に盛り込まれたが、民間主導でのSIB事業のパイロット事業が先行して実施されてきた。
- ・2017年度には、厚生労働省による健康・医療分野のSIB事業の実施も計画されており、国主導での普及に大きな期待が寄せられている。
- ・その一方で、SIB事業の事業環境は民間事業者にとって依然として厳しい現状にある。SIB事業では、企画から実施段階まで事業全体をマネジメントする中間支援組織の役割が重要であるが、SIB事業で得られるリターンや、NPO法人の健全性が不透明ななかでの共同参画プレイヤーの発掘を始めとして、中間支援組織を担う事業者の負担は非常に大きい。
- ・さらに、SIB事業に民間投資を呼び寄せるために必須となる事業評価（事業のアウトプットによるアウトカム評価、社会的インパクト評価）も、政府や各種関係団体によるマニュアル等が整備されてきたものの、具体的な指標の選定等の作業は実施主体に委ねられており、実施された評価の質に対して社会的な同意が得られるかどうかの課題は残る。

(出所) 大和総研「日本でのソーシャル・インパクト・ボンド事業の展望と課題」(2016年11月15日)

【ソーシャル・インパクト・ボンドの仕組みから派生した休眠預金等の活用案】

健康経営の重要性が叫ばれる昨今、中小企業健康経営を側面的に支援する事業に休眠預金等の活用をしてはどうか。

【中小企業健康経営側面支援事業】

- ・大企業健保であれば対応可能な従業員の健康管理（運動、食事、生活習慣、メンタル、これらに関わるデータ分析等）について、その対応が困難な中小企業を支援する取組み。
- ・結果として地域の健康づくりにも寄与するため、協会けんぽ、中小企業だけでなく、自治体も巻き込んだ取組みとして検討できるのではないか。

<解決すべき社会的問題点と休眠預金を活用する活動例>

① 子どもおよび若者に関する事項：

- ・子どもの貧困対策：貧困世帯や児童養護施設への食品の配布（フードバンク活動）、学習支援教室の運営
- ・孤立した子ども・若者支援：育児放棄や虐待を受けている子ども向けのシェルター運営、不登校の子どもやニートの自立支援
- ・子育て支援：子育て中の親同士の交流イベント、育児相談会の開催 等

② 日常生活等を営む上で困難を有する方に関する事項：

- ・障がい者の自立支援：障がい者に対する職業訓練の実施、障がい者を支える家族の交流イベントの実施
- ・高齢者の支援：福祉サービスの情報提供・手続き支援、財産の管理支援、高齢者の活躍の場の提供、認知症患者と介護する家族の支援
- ・その他：DV被害者に対する相談、シェルターの運営 等

③ 過疎地等の社会インフラに関する事項

- ・まちづくり活動支援：空き家・空き店舗等の活用
- ・里山再生：里山の保全・整備活動 等